

「希望郷いわて」

農業・農村の復興に向けて

●大槌町下野工区の取組

■農林水産部農村計画課・農村建設課

岩手県では、平成26年度を「本格復興推進年」と位置づけ、「なりわい」の再生が実感できるよう復興を強力に推進しています。

これまで農地・農業用施設の復旧状況は、平成23年度から、『希望郷いわて』農業・農村の復興に向けて』と題して紹介してきました。

本号では、現在、大槌町で農地の復旧・整備を計画している「農用地災害復旧関連区画整理事業 釜石・大船渡地区 下野工区」における取組を紹介いたします。

1 地区の現状

大槌町の津波被災農地は約15haですが、下野工区はその約半分を占める7haほどの区域です。

これまではガレキ処分場として使用されてきた農地ですが、平成26年3月に処分場が撤去さ



れ、地権者に返還されました。

県では、「農地として存続させたい」という多くの地域のの方々の意向を受けて、現在、

関係機関との協議・調整を行いながら、災害復旧と併せたほ場整備の計画を策定しているところです。

被災前の水田は、1aから10a程度と小区画で、用水路と排水路が兼用の浅い水路で水管理に苦労していました。さらに、津波による表土の流亡やガレキ混じり土の堆積に加え、地盤沈下も発生しています。

本地域の農業を再生するためには、生産性・収益性の高い栽培モデルの確立・実践と経営体の育成が急務ですが、これらを実現するためには、大区画で汎用性の高い農地の整備が必要です。



■下野工区事業計画区域（赤線囲み部分）

2 園芸による復興・発展を目指して

当地区では、震災以前から耕作されなくなった農地を地元の製麺業者と連携し、ソバ畑として活用する取組を行ってきました。また、国道沿いという立地を活かして、畦畔や道路法面にシバザクラを植えて、美しい景観スポットをつくる構想もありました。

「沿道がシバザクラの花で満開になったら、とてもきれいだろうと思って、苗を注文した矢先の震災だった。」と地域で農業を営む阿部和子さんは当時を振り返ります。

阿部さんは、9年前に就農した当初から「農業で地域を元気にしたい」と、ソバ畑や

シバザクラを活用し、美しい景観を形成するための地域活動を行ったり、トマト・イチゴなどの園芸作物の導入を検討して

きました。



■「地域の皆で園芸に取り組みたい」と意欲的に語る阿部さん

震災後もその想いは変わることなく、むしろ、「この数年分を取り返すくらい色々なことにチャレンジしていきたい。」と、力強く語ります。

現在は、被災地の園芸産地再生を支援する「食料生産地域再生のための先端技術展開事業(先端プロ)」(*)を活用して、産官学の取組と連携しながら、様々な品種のミニトマトとクッキングトマトを栽培しています。

露地では省力栽培、施設では低コスト隔離栽培床を用いた栽培の現地実証を行っており、導入している良食味で加工適性の高い品種は、生食用・加工用ともに付加価値の向上が期待されます。



■施設栽培(上)
今年度から実証試験を開始
■露地栽培(左)
昨年度大雨で被害を受けたため、盛土を行った

これらの実証を通して、生産と販売の両面から、高収益モデルを確立し地域へ波及させるべく取り組んでいます。

阿部さんは更に、こう語ります。

「震災以前は、作付けしない農地を借りて比較的手のからないソバを作付けしてきました。真っ白いソバの花が道路沿い一面に広がったら素敵でしょう。この地域の農地を守りながら良好な景観を生み出したいと思って取り組んでいました。」

また、農業で地域を元気にしたい、そのために儲かる農業を実践したいとも思っていて、収益性の高い園芸作物の栽培というのは、それを実現するための一つの方法だと思えます。一人では限りがあるから、地域で仲間をつくって皆で一緒にやっていたらと思っています。

うれしいことに、今年度ハウス栽培を始めると、近所の方々が興味をもつて声をかけてくれるようになりました。「おいしいよ、食べてみて」ってことから会話が始まるのは農業ならではのすよね。震災後、いまだ家に引きこもりがちな人たちもいます。そのような人たちが外へ出るきっかけをつくる意味でも、地域で一緒に取り組む仲間を増やして、農地が復旧したならば、イチゴやトマトを栽培できるよう、現在の実証試験を通して準備していきたいと思っています。」

県では、農地の復旧・整備を通じて、地域農業の復興、コミュニティの再生、雇用の創出などの地域の活性化に向けて、引き続き関係機関と連携しながら、被災地域の復興の後押しを進めていきます。



■施設内の栽培状況。生食用、加工用を含め多くの品種が栽培されている

*「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」(先端プロ)
復興庁と農林水産省が実施する研究プロジェクトで、農業・漁業分野の復旧・復興のため、産官が開発してきた先端技術を組合わせ、被災地の生産者と協力しながら技術の有効性を実証し、普及・実証化を促進するもの。
岩手県では、「中小区画土地利用型畜産技術」「中山間地域施設園芸」「果実・野菜のブランド化」の3つの研究テーマにおいて、7つの実証研究が行われている。
これらの成果を地域へ波及させることで、新たな食料生産地域としての再生復興を加速させることとしている。

●このページに関するお問い合わせ

岩手県農林水産部農村計画課・農村建設課

Tel 019-629-5674 / Fax 019-629-5679 / E-mail:AF0006@prefiwate.jp